

夢を追い続け… より高く… より美しく…

創立40周年記念特集 そして出発号

あまの川

創立40周年記念 女流工芸展
ありがとうの創立40周年記念祝賀会

NO. 30

埼玉県女流工芸作家協会

<http://joryukougei.jp>

SAITAMA LADIES KOUGEI ASSOCIATION

創立40周年記念 女流工芸展 〈審査評〉

平成28年4月28日～5月1日
埼玉県立近代美術館



三田村有純
東京藝術大学美術学部教授
江戸時絵赤塚十代継承
日展会員（審査員六回）

創立四十周年記念の年となった本年度の作品群はいずれもレベルが高く、鑑査、審査員一同丹念に作品と向かい合い、入選、受賞候補の選定をしてきた。今回の外部審査員三人は昭和二十四年生まれの同年代であり、女流工芸の審査の先生方と寡黙な中で鑑査を進めたが、時には意見を出し合い、何が良いに付いて話し合いを行った。その中で皆が一致した事は、個性ある作品、技法的に優れた作品が皆の評価が高かった事である。

女流だけの総合工芸展覧会は日本で唯一であり、しかも四十年を越える歴史を持つている事は他には真似のできない事である。その意味で私はこれからこの展覧会が日本の社会に果たすべき役割は大きいと感じている。来年以降も多くの方の応募があり、この展覧会活動が益々大きく発展する事を祈念している。

創立四十周年記念女流工芸展グランプリ賞③染「夏のはじまり」
遠くの山々の上に、くずの花を描く。蠟染めのお互いの色が複雑に関係し合う柔らかな曲線は、命ある世界感を産み出す。効果的なくずの花の影の表現が、見る者を、幽玄の世界に誘う。正に女流工芸展覧会の傑作である。

埼玉県文化団体連合会賞⑦藤「貴婦人」
内側と外側の編み方を変えて二重構成で造形表現をする。たおやか



原田一敏
東京藝術大学大学院美術副館長
日本伝統工芸展監査委員
文化庁文化財専門審議会委員

第四十回の記念すべき「埼玉女流工芸展」の審査をさせていただきました。美術史の研究、評論家に加わったのは本展では、これまで少なかったのではないのでしょうか。今回審査していただければ印象的であったのは、レベルが高いことと、ジャンルが幅広いことでした。とくに染織や刺繍などに力作が多かったことが記憶に残りました。日常の生活や身近な自然から得たモチーフ、女性らしい優しい色使い、こまやかな気遣いが作品にも現れていました。工芸は本来、



特別出品作品



な佇まいは貴婦人の持つ優雅な動きを表出する。藤工芸だからこそのきる柔らかで存在感のある造形であり、今後に大きな可能性を秘めている。

埼玉県美術家協会賞⑧刺繍「早春」
遠景に浮かぶ山々、中景の緑あふれる山にもくもくと湧き上がる雲は、幾重にも重なり動いていく。この世界を山の頂から眺めている作者の自然への美の憧憬が表現された優作である。

行田市長賞⑩織「海の底には」
海の底に届く太陽の光が織りなす色彩の魔術。薄く濃く青の色が行き交い、そこに赤色の光が入り込み主張をする。板締めで染め上げ、織の技法で仕上げた本作品は縦に長く三分割して構成する。秀でた作品である。

テレ玉賞⑬染「アンラッキーズ」
正絹袖に小さな模様が確かな伝統技法で丹念に染められている。その模様は色彩とバランスが心地良く目に飛び込んでくる。模様は蛇や蜘蛛、呪いの人形等の逆吉兆であり、醸し出す意味はとてつもなく大きい。

FMNACK5賞⑭木彫「空に向かって！」
格子状の直線の上に重なりで彫られたアイビーの葉の造形が実に見事である。朴の木が持つ質感を大事にして、葉の持つ生命観を生き生きと刀で表している。透かしを入れ、四隅を丸く構成した感性は見事である。

毎日新聞さいたま支局賞⑰染「春がすみ」
本麻の上に藍染めで春にかすむ世界を表出する。大きく浮かぶ三つの雲を出線で、その奥にある霞を直線で構成した作品はバランス良く、表現されている。雲の中に配した蝶や桜の花びらと玉虫箔の色彩は心憎い。

埼玉県議会議員賞⑮染 縫取細織着物「ゆかし董野」
浅黄色地に縦の縞を入れた平織の地に、裾を淡い青として、縫取で土坡と葎を散らし、春の陽の野の情景を描いている。えんじゆ、クチナシ、丁子など植物染料による優しい色合いが美しく、独特の風合いに加えて、気品を備えた作品となっている。昨年のいかり草縫取着物と縞や文様の構成が同様で、確立した技術が見られるが、今後さらに作風の幅を広げられることを期待したい。

NHKさいたま放送局賞⑯人形「出初め式」
出初め式の様子を群像で、顔の表情が凛々しかったり、また緊張しているなど様々な表情の人々が生き生きと再現されている。見ていて楽しい作品といえ、



る。人形本体に比べ台座が粗末であるとの意見があった。本体以外の細かい点まで配慮をしてくださいます。

埼玉新聞社賞⑮刺繍「朝が来た」

蓮の花の咲く情景は古くから日本ではなじみ深く、多くの名画が残っている。南宋絵画の蓮地図を思わず連想してしまった。濃淡を交えた緑の葉に刺し子のように糸を入れ、蓮の葉脈のピンクの線もリズムカルであるが、なにより配色が美しい。

朝日新聞さいたま総局賞⑯七宝「人に逢う道すがら」

風に揺れ合い、品よく控えている情景を想起したと作者は述べている。水仙の一叢をそのままに移し取ってきたかのような構図で、鮮やかな黄色と、葉裏



金子賢治

茨城県陶芸美術館長
多治見市美濃焼ミュージアム館長
国際陶芸アカデミー会員

工芸は絵画や彫刻、建築、デザインとは違い、まず素材を限定し、その範囲内でいかに個性的な形、表現を作り出すかということが問われる。なかなか制約の厳しい世界であるが、制約があるからこそ出てくる形、表現というふうな発想を逆転させると、こんな面白い世界もない、というふうな提案することもできる。

埼玉女流工芸展には、陶芸、染織、木工、竹工、人形、七宝、革工芸など、およそ主要な工芸各分野の作品が出品され、活況を呈している。革工芸などは現代工芸界のなかで、長年、有効な表現が見出されずにいる分野であるが、ここでは近年、なかなか興味深い作例が出品されているようで、注目した。

陶芸の器から造形的な作品までの現代陶芸界の様相を反映した姿、染織、着物などの堅実な制作、一方でお祭りの楽しい表現や過去の思い出の形象化など、日常を大切にされた微笑ましい作品など、まさに女流工芸面目躍如たる変化に富んだ展覧会となった。そのエッセンスを受賞作品がよく物語っている。

埼玉県知事賞①陶「遊RING集I」

手捻りと轆轤を巧みに併用しリングを作り出し、それを五点並べ心地よいリズム感を内出している。釉もよく吟味されたもので、抑制の効いた色、質感で全体の雰囲気を出すのに効果的で、一つだけ色を違えているのも素晴らしいアイデアである。

の白、茎の緑がそれぞれの色を対比させ、華やかさを印象付ける。七宝特有の透明感のある色調が効果的に発揮されている。

読売新聞さいたま支局賞⑱染織「カンナ」

カンナは赤や黄の大輪の花を咲かせる夏らしい花。その鮮やかなイメージを型染によって表している。素材は麻で、白地としたカードから飛び出したような赤とピンクの花が、黒染の地に映える。使った染め作品となっている。

埼玉県国際交流協会賞⑲七宝「むらさきつゆ草」

つゆ草を三方に散らしているが、こうした構図は古代から行われた工芸の文様表現である。茶色がかかった紫、濃い紫の葉弁の濃淡は、日の当たり具合までを考えていたのであろうか。可憐な姿を釉葉の変化で、上手にとらえている。

埼玉女流工芸大賞②樹心

いわゆる漆皮作品である。伝統的な技法であるなめし、打ち出しに削り、編込み、染色など、作家ならではの工夫を加え、独自の形を作り出した。内から外へ張り出していくような生命の息吹が表現されている。

高澤英子記念賞④陶「かくれんぼ」
ドーナツ型の形に多くの円形の穴が開けられ、内部に小さな球体がいくつも見え隠れする。本体はくすんだ黒、内部の球体は原色と、色彩の対比にも配慮している。見る人たちが何か楽しくなる様なもの、という作者の意図はよく実現されている。

埼玉県教育賞⑥人形「いつかのあの日」

大の字に昼寝する弟を傍らで見守る姉。すると誰かが声をかけたのだろう。右の方を振り返っている。この縦線（姉）、横線（弟）、斜めの線（姉の視線）の交叉がこの作品に限りないストーリー性を与えている。幼い日の作者の思い出である。もう二度と戻らない。しかしその頃のワンピースも細かく覚えているといふ。その強い思いが素晴らしい作品を作らせた。

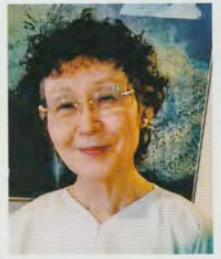
埼玉県女流工芸作家協会賞⑨陶「線刻文壺」

しっかりとした成形による壺に白化粧を施し、色紙型を並べ、線刻文を表している。正方形の色紙型に幾何学的な線刻文、そしてその間をつなぐように重ねられた緑釉の色紙型のスタイル、色彩の組み合わせ、それが何とも洒落である。

さいたま市長賞⑩陶「粉引きぼろし文大皿」

轆轤による確固たるフォルムの大皿に全面にぎぼろし文を描く。普通、ギボウシは花に注目が集まるものだが、この作品ではどちらかというと葉をクロアアップして大胆に、花は爛々たる可憐な姿に描いて対比させ、なかなかしたたかな文様巧者ぶりを見せている。





会長

滝沢布沙

ありがとうございますの創立40周年
そして明日へと――

新緑の瑞々しい季節の中で、当協会の創立40周年記念展及び記念式典が盛大に開催されました。長きに渡りご後援ご支援賜りました県・市、マスコミ各社、歴代の審査員の先生方、多くの皆様のお力添えの賜と会員一同共に心より感謝申し上げます。誠にありがとうございました。

四十年前、国際婦人年を契機に、女性の創作の自由と創造性豊かな社会の構築を願って誕生した女流工芸作家協会は、着実に歩み続け、30周年の節目を刻んだ後に創立者高沢英子会長より引き継ぎ、会の目指すべき姿として「野の花」に会の姿を重ねました。風雪に耐え、凜と咲き、大地を彩り、旅人の足元を照らす花灯りともなる小さな花々――。私達女性の日々の暮らしの中から生まれる作品には各々の願いや祈り、夢が込められています。日本の四季に育まれた繊細な感性と伝統の技によって生まれる「日本のものづくり」が、世界の人々に新鮮な驚きと敬意を持って注目されることとなり、四年後のオリンピック、パラリンピック開催に向けては、衣食住の全ての分野で飛躍的で斬新な展開が期待されておりです。当協会も創立40周年の節目を経た今、女流工芸の活動と花ひとひらのメッセージ「生命の輝き」を、よりクリエイティブに美しく世界へ発信できるよう、可能性の扉をたたき、歩んで参りたいと思っております。

当協会を応援して下さい多くの皆様の、さらなるご指導ご支援を心よりお願い申し上げます。

周年記念 祝賀会

「心の宝物のアルバム」

ご来賓の皆様をお迎えして
平成28年5月1日
ホテルブリランテ武蔵野



受賞者一覧

- | | | | |
|----------------------|------|-----|-----|
| ① 埼玉県知事賞 | 大友幸子 | 友和子 | 陶革染 |
| ② 埼玉女流工芸大賞 | 山本種 | 朝和子 | 織形 |
| ③ 創立40周年記念女流工芸展グランプリ | 千種澤 | 靖里香 | 人籐刺 |
| ④ 高澤英子記念賞 | 阿部村 | 恵裕子 | 織形 |
| ⑤ 埼玉県議会議長賞 | 中藤 | 井芳子 | 刺繡 |
| ⑥ 埼玉県教育長賞 | 近藤 | めぐみ | 陶 |
| ⑦ 埼玉県文化団体連合会賞 | 高井 | め | 陶 |
| ⑧ 埼玉県美術家協会賞 | 布藤 | 奥津 | 織形 |
| ⑨ 埼玉県女流工芸作家協会賞 | 井藤 | 野部 | 染 |
| ⑩ さいたま市長賞 | 藤奥 | 野部 | 刺繡 |
| ⑪ 行田市市長賞 | 正野 | 飯島 | 木七 |
| ⑫ NHKさいたま放送局賞 | 若飯 | 横山 | 刺繡 |
| ⑬ テレビ玉 | 木澤 | 深井 | 七 |
| ⑭ FM NACK 5 | 瀬戸 | 高梨 | 染 |
| ⑮ 埼玉新聞社賞 | 高梨 | 智恵 | 七 |
| ⑯ 朝日新聞さいたま総局賞 | | | |
| ⑰ 毎日新聞さいたま支局賞 | | | |
| ⑱ 読売新聞さいたま支局賞 | | | |
| ⑲ 埼玉県国際交流協会賞 | | | |

東京藝術大学美術学部教授
茨城県陶芸美術館長
東京藝術大学美術学部教授
東京藝術大学美術館副館長

原田一教様

東京藝術大学美術学部教授

三田村有純様

招待審査員

漆芸作家

金子賢治様

毎日新聞社さいたま支局長

山口義明様

埼玉新聞社代表取締役社長

竹中克好様

テレビ埼玉代表取締役社長

小川秀樹様

NHKさいたま放送局長

平本一郎様

埼玉県文化団体連合会会長

松岡健三様

埼玉県国際交流協会理事長

小池千代子様

埼玉県男女共同参画課長

小島敏男様

行田市長

堀光美知子様

埼玉県教育委員会教育長

工藤正司様

埼玉県議会議員

岡根郁夫様

埼玉県議会議員

柿沼トミ子様

埼玉県知事

上田清司様

御来賓

ありがとうの創立40周年記念授賞式祝賀会

創立40周年記念 女流工芸展

平成28年4月28日～5月1日

ありがとうの創立40

— つむぐ —



宮田亮平東京芸術大学学長退任展

「喜怒哀藝」2016年11月14日(月)～23日(水)

一步会場に入ると、イルカが天翔けるように泳ぐ眩ゆく美しい世界を感じました。

宮田先生は、佐渡の「蠟型鑄金」技術保持者の宮田藍堂を父にご家族皆様が芸術家であり、先生が、大学を受験される時に、佐渡から新潟に向う船上で、イルカの群れが海中を伴走する姿に出会い、その躍動感に魅せられたことが創作の原点となり、イルカをテーマにした作品が生みだされたと伺っております。

本展覧会では、シュプリングシリーズ、パストラール、鶴、ゲルシリーズなど、目をみはるような数々のイルカが展示されていました。そのイルカが語るメッセージ「喜怒哀藝」をしっかり受け止め、私達の日々のものづくりに織り込んでいきたいと思っております。

4部 戸松令子



女流工芸協会では、宮田亮平先生を第5回展を始めとして、20回展、30回展に招待審査員として6回お迎え出来ました。

若き日の宮田先生は、会場を廻りながら、私達の作品は優しさにあふれ、他の工芸展ではなかなか見られない女流工芸だけの特徴と云われました。また、「工芸とは、その時代の文化の中から生まれ、時を経て文化遺産となるもの」「ものづくりは、手と心と感情が形を造りだすもの」と云われ、「その作品が工芸の指針となるので、頑張ってください」と励まして下さいました。そのお言葉を今でも忘れることができません。

今、先生は東京藝術大学学長を退任し、文化庁長官にご就任され、数々の要職に着かれております。これからも先生のご活躍と御健康を会員一同お祈り申し上げます。

副会長 千種和子

三田村有純東京芸術大学教授退任記念展

「黄金境界」2016年10月25日(火)～11月6日(日)

江戸蒔絵の流れを受けて

会場狭しとこれまでに創られたたくさんの作品が一堂に展示され、先生の歩まれた漆藝の道と漆の概念を越えた美しさに魅了されました。

先生は幼少期より江戸蒔絵の大家祖父自芳、父秀芳の仕事を手本として木を彫り、螺鈿象嵌を体験され、塗りや蒔絵など漆の学習を重ねられました。会場には、その師匠でありご家族でもある明治・大正・昭和の漆藝作家作品や資料等が展示されていました。また先生は、建築空間と漆藝の融合を木材と和紙と漆で構成する2畳の居室をもって表わし、未来への提言をされました。

先生はかつてお椀でご飯を召し上がっていたそうです。漆と共にあった日本人の生活文化を教えていただき、『日本はいったい何処へ行ってしまおうのでしょうか。』といわれたメッセージが心に残ります。日本の漆工芸の先行き、生活文化の変革がどうなっていくのかを投げかけられたのでしょうか。そのお言葉を受け止め私たちも工芸文化を大切に創造していきたいと思っております。



「黄金幻想」同時開催 平成記念美術館ギャラリーにて

先生の造形作品を中心に祖父・父・御子息様の作品が一堂に集う漆藝展が開催されました。

19日の漆藝制作体験「漆と金のアクセサリーを作ろう」にチャレンジし、あたたかいご指導をいただき、漆藝の奥深さにふれる事ができました。

広報

研修旅行「歴史遺産・文化遺産再発見」

秩父路を訪ねて——— 2016年11月17日(木)

今回の研修旅行は秩父“近場の遺産再発見の旅”となりました。秩父銘仙は、国の伝統工芸品に指定されていると言う事で「ちちぶ銘仙館」見学。館内(施設、展示など)を案内していただき懐かしい着物との出会いなど予定時間をオーバーしての見学となりました。今も秩

父 銘仙を作る技術を習得する後継者育成講座を開講しているとのことでした。次に「まつり会館」では、ユネスコの無形文化遺産に登録された「秩父祭の山・鉦・屋台行事」が展示されており、提灯を灯した夜のまつりを再現、迫力があり世界に認められた伝統に感動し、見応えのある映像でした。鎮座2100年の歴史ある秩父神社に参拝、秩父織物関連の建物が並ぶ買継商通り等、紅葉の美しい長瀨「長生館」での昼食会もおおいしくいただきました。

3部 及川きみ子



仮織りした縫糸をほぐし取りながら本織りしてゆきます。

仮織りした経糸に型紙を置き、染料を刷毛(はけ)で刷り込みます。

デザイン原画を元に型紙を彫ります。

経糸を織機かけ、捺染の際糸がくずれないように粗く緯糸を通して仮織りします。

必要な長さとお本の絹の経糸を、ドラムに巻いて糸を整えます。

秩父銘仙が
できるまで
(ちちぶ銘仙館資料提供)



次回予告

第41回 埼玉女流工芸展

埼玉県立近代美術館

平成29年4月27日(木)～4月30日(日)

〈招待審査員プロフィール〉

樋田 豊郎

・東京都庭園美術館館長
・前秋田公立美術大学理事長兼学長

豊福 誠

・東京藝術大学美術学部工芸科陶芸教授
・日本陶磁芸術学会会長
・日本工芸会正会員

田口 義明

・日本工芸会正会員漆芸部会常任理事
・沖縄県立芸術大学非常勤講師
・東北芸術工科大学非常勤講師

(敬称略)

各先生方のホームページをご覧ください。

平成28年度 新会員

どうぞよろしくお願いいたします。



丸山 栄子
染・八潮



島村 徳子
七宝・春日部



佐藤 尚子
七宝・さいたま

定期総会

7月4日



浦和コミュニティセンターにて、会員出席のもと、定期総会が開催されました。

■ 編集後記

●木々の葉っぱが色づいて、落葉の頃になると、また編集の詰めのシーズンです。楽しい仲間の集いです(K・S) ●今秋、熱きリオ五輪から2020東京への話題尽きず。スーパームーン十六夜の美秩支路研修へ。その中会報編集 "輪の結晶!! (M・K) ●和気合いと会議を重ねいつの間にか新年を迎え、会報誌も出来上り感激です。(K・I) ●例年ですが思いの外苦勞して(とりわけ部長が)作っている花かんわり楽しんで頂けます様に。(N・S) ●数々の美しい秋の余韻を残し急に寒さがおしよせてきました。この中で広報の方たちの温かさも手伝ってか良いひとときを持たれたことに感謝します。(M・E) ●飲む点滴と言われています。米麴の甘酒が流行ってます。美味しいですよ!(R・Y) ●天候不順でアッという間の一年。40回展の節目を機にリフレッシュに努めたい… (T・T) ●第40回記念展があり、会報誌はもりだくさんの内容となりました多勢の方のご協力の元無事発行出来ました。2017年も宜しくお願いします。(S・T)

ART LIFE 美のある生活

女流工芸ものづくり体験講座

in OMIYA SOGO



大宮そごうエリアモード企画に参加

8月26日～9月9日	1部 (染・織)
9月10日～9月23日	2部 (七宝・ガラス・金工・スタンドグラス)
9月24日～10月7日	3部 (籐・漆・木工・ロープ)
10月8日～10月21日	4部 (陶芸)
10月22日～11月4日	5部 (刺繍・組紐・樹脂・木目込・押花アート)

自然豊かな文化性に富む地域づくりの施策として、埼玉発文化の発信をコンセプトとした、そごう大宮店の企画に参加しました。3部の土橋恵さんが籐の丸い可愛いストラップ。子どもさんも参加。5部の慶田和子さんが2017年度のカレンダーを囲み、周囲に押し花を配置した作品作りを実施して盛況な内に終える事ができました。

皆様、お忙しい中をご協力下さいまして本当に有り難うございました。

5部 高井芳子



■第41回 埼玉県文化振興の集い 2017年1月14日(土) 越谷市サンシティ 全体テーマ — つなげよう・ひろげよう — 美術部会分科会テーマ — 美の環 — 美術展に参加しました。

■埼玉県男女共同参画推進センター

with youさいたまフェスティバル 2017年2月3日(金)・4日(土)・5日(日) 展示・ハンドワーク部内に参加。作品展示とチャリティ販売

＜りつ＞

見果てぬ夢

一体、工芸とは?!と模索すること20数年。ようやく答えを37回展広報誌の中に見つけました。審査員の安藤先生曰く、素材を生かし素材に甘えない。工芸を情緒的に捉えると趣味、手芸に終わる。しかし、工芸の厄介な性格を抱え乍らも創造する意欲、楽しさを持ち続けたら良い作品が生まれぬ訳がない。自分だけの形、色、世界をみつける…等々。全く頭の下がる明快なお言葉でした。

さて私はといえば、昔から美術館、工芸館通いをしていますが、中でも日本民芸館の工芸品には無量の美しさ、深さを感じ身のひきしまるものを覚え、又学んでいます。

しかし私でも制作の時には無我の境地に達し、心地良い緊張感の中で進めます。いつもではありませんが。そして感謝します。

今年もアトリエの前の山百合の蕾がふっくらとして今にも咲きそうです。まさに至福の一時で、創作の原点でもあるのです。

1部 遠藤明子